

古典の日フォーラム2025

日時: 2025年11月1日(土)午後1時~4時

場所: ロームシアター京都メインホール(京都市左京区岡崎最勝寺町)

内容: 総合司会 三宅民夫さん(元NHKアナウンサー)

[第1部]

◆テーマ曲「古典の日燦讚」と「古典の日宣言」

演奏: 大谷祥子と六条山楽坊

宣言: 長谷川聖花

第16回古典の日朗読コンテスト[中学・高校生部門]大賞受賞者



◆主催者挨拶

古典の日推進委員会会長 村田純一

文化庁長官 都倉俊一

◆来賓祝辞

元衆議院議長 伊吹文明

衆議院議員 勝目康

◆第40回国民文化祭「ながさきピース文化祭2025」との連携

メッセージ: 大石賢吾(長崎県知事)

命婦の舞(国選択無形民俗文化財) 命婦の舞保存会



命婦の舞とは?

長崎県対馬に伝わる巫女舞で、島内各地の神社の例祭で奉納されている。起源は中世以前とみられ、近世には世襲的に継承されていたことが確認されている。白衣白足袋、緋袴に千早を着た命婦が、神楽太鼓を打ちながら神楽祝詞を唱えた後、神楽鈴を持って古風な神楽歌を歌いながら四方舞を舞うもので、神楽の原初的姿を考える上で貴重な伝承である。かつては島内にかなりいた命婦も、現在では伝承が危ぶまれる状況になっている。

〔第2部〕「江戸時代の文化」

◆講演「花開く町人の文化」 澤田瞳子(作家)



文化といっても学問、芸術、道徳といろいろある中で、江戸に町民の文化として花開いた絵画の流れをたっぷりと聴かせていただきました。皆さんは、古くて有名な日本の絵画といったら何を思い浮かべますか？浮世絵！という声が多いと思います。でも浮世絵以前に描かれた絵画はたくさんあります。遡れば「日本書紀」に絵師という肩書が記されていて、この時代、国の仕事として絵を描く専用の師族が存在しましたが名前は残っていません。平安時代になって初めて百済河成という画家の名前が確認できるようになります。この時代、日本で独自に発展してきたのが大和絵です。この頃までは公務員絵師が活躍しています。鎌倉、室町時代にかけて禅僧が中国から持ち帰った水墨画がもてはやされ、室町時代になると政府お抱えの御用絵師が誕生。その代表が狩野派です。家康に呼ばれて江戸幕府のお抱え絵師となったのが江戸狩野、京都に残った一派を京狩野と呼び、二派に分かれます。この狩野派の粉本主義の教えを受けた民間絵師が増え、独自の絵を生み出す円山応挙や伊藤若冲、江戸であれば菱川師宣、歌川豊春が登場します。江戸より以前は権力者のための絵画であったのが、一般庶民の絵画が誕生したのです。このような永い歴史の果てに町人の文化として江戸時代に花開き、今も町の各所でその絵を目の当たりにすることができます。

◆人形浄瑠璃文楽『義経千本桜』二段目 知盛幽霊の段」

太夫 竹本織太夫 三味線 鶴澤清志郎 人形 吉田簀紫郎

「義経千本桜」の二段目「渡海屋・大物浦の段」の中の一場面、船宿の亭主に身をやつし、宿敵・源義経への復讐の機会を狙っている平知盛が、正体を現して、大物浦に義経一行に一矢報おうと出陣する場面。文楽は、太夫(語り手)と三味線が登場人物のセリフや心情、場面の雰囲気すべてを表現します。知盛が怒りや悲しみに満ちたセリフを語る場面では、声の抑揚や三味線の音が、まるで心の中に入り込んでくるようです。日本の語り芸術の粋ともいえる部分です。人形も白い鎧の知盛は人間以上の「気迫」や「怒り」を体全体で表現します。



「義経千本桜」より「渡海屋銀平実は中納言知盛」

◆アフタートーク「文楽の魅力」

吉田簀紫郎×三宅民夫

太夫、三味線、人形遣いの三業はあっているようで実はずれている?!でも大事なところではがちとかみあい舞台と客席が一体となって芝居が盛り上がる。簀紫郎さんは、10歳の時にテレビに流れていた文楽の人形に惹かれ、この世界に足を踏み入れた。毎公演、今日という工夫を重ね、古典として継承されてきた演目に新しい息吹を吹き込み進化させている。

